

持続的で収益性の高い温根別農業の確立

みんなで創ろう！地域の和と絆で繋ぐ未来のカタチ・・・

活動対象：士別市温根別町北線地区8戸

畑作物の安定生産の取り組みとして、秋まき小麦のは種量の適正化や適期追肥を推進し、導入が促進された。春まき小麦の初冬まきを新規導入し、慣行の春まき小麦対比140～180%の高収量を確保した。

地域を支える担い手育成の活動として、若手農業者による機械共同利用組織が設立され、地域の大豆は種作業を60ha担った。機械の共同利用化により経費の削減や適期は種が促進された。今後はドローンの導入による防除等の事業拡大が見込まれており、さらなる作業の効率化が期待される。

1 課題の背景

地域の現状

雪解け遅く栽培期間短い
市平均と比較して低収

高齢化や離農等により
担い手へ急速に農地集積

地域の課題

秋まき小麦、
春まき小麦の生産安定化

作業受託組織の推進に
よる作業の効率化

普及センターの活動

適期は種、適期追肥の提案
春まき小麦初冬まきの提案

作業受託組織設立支援
受託システム円滑化支援

令和3～4年度の活動成果

真空は種機による
大豆は種作業
省力化の検討



真空は種機の購入と共同利用、
作業受託組織立ち上げの機運
が高まった。

2 活動の経過

畑作物の安定生産（8戸）

○秋まき小麦

- ・適期適量は種の推進→試験展示ほ設置
- ・茎数に応じた追肥の推進→現地研修会

○春まき小麦初冬まき

- ・ドローンは種の新規導入→試験展示ほ設置

春まき小麦がドローンで
は種出来るなら、
ほ場条件を選ばなくていいな!!



ドローンによる
春まき小麦初冬まきは種



秋まき小麦茎数調査



現地研修会

地域を支える担い手の育成（3戸）

○若手農業者による作業受託組織設立

- ・大豆は種作業受託の推進→現地実証
- ・作業受託組織運営の円滑化
→先進地事例調査、勉強会
- ・新規事業（ドローン導入）の検討→勉強会

北海道農業会議
講師による勉強会



法人化勉強会



大豆は種作業受託

3 活動の成果

畑作物の安定生産

○秋まき小麦

- ・適期適量は種の推進
- ・茎数に応じた追肥の推進

表1 秋まき小麦は種日とは種量の目安

は種時期	適期	遅まき
	9月9～15日	9月16～23日
は種粒数(粒/m ²)	110～140粒	150～260粒
は種量(kg/10a)	4～5kg	6～10kg
越冬前生育量(葉数)	6葉確保できる	5葉確保できる

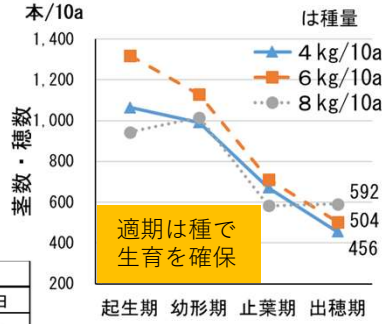


図1 秋まき小麦は種量別生育経過

表2 秋まき小麦起生期茎数に応じた起生期分肥の目安

起生期茎数(本/m ²)	分肥窒素量の目安量(kg/10a)	施肥例(kg/10a)
1,600本以上	0kg程度	なし
1,600～1,200本程度	2～4kg程度	硫安 10～20kg
1,000本程度	6kg程度	硫安 30kg
800～600本程度	8kg程度	硫安 40kg
600本以下	8～10kg程度	硫安 40～50kg

茎数に応じた追肥管理は理解できた。天候やほ場条件によって、適期に追肥出来ないときもあった。



○春まき小麦初冬まき

- ・ドローンは種の新規導入



表3 春まき小麦初冬まき収量調査結果

農家	は種時期	は種方法	子実重(kg/10a)	製品重(kg/10a)	慣行対比(%)	千粒重(g/千粒)	歩留り(%)	等級
A	初冬まき	ドローン	457	436	182	40.5	95.6	1中
B		ドリル	357	339	141	39.0	94.9	1下
C		ドローン	410	382	159	39.4	93.0	1下
C慣行	春まき	ドリル	253	240	100	40.6	95.0	2上

初冬まきで収量・品質UP!



図2 春まき小麦初冬まき導入戸数

地域を支える担い手の育成

○若手農業者による作業受託組織設立

- ・大豆は種作業受託の推進
- ・作業受託組織運営の円滑化
- ・新規事業(ドローン導入)の検討



ベテラン農業者

若手も忙しいのに作業頼むの悪いな...



若手農業者

安心して下さい! あいてますよ!

実際の受託状況を基に、受託可能面積を試算

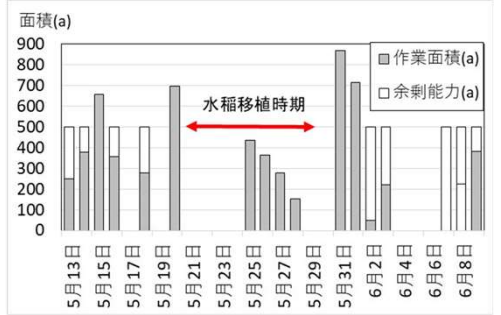


図3 作業受託組織のR5受託面積、余剰能力試算

新規事業・ドローンの導入も検討中



若手農業者6戸・構成員8名による「3M機械共同利用組合」設立 令和7年には法人化予定!

4 今後の対応

畑作物の安定生産

○小麦の安定生産技術の確立

- ・春まき小麦初冬まき栽培の技術向上をはかるため、好適なほ場条件やは種方法を検討
- ・大豆・小麦の作付け割合が高いため、新たな輪作品目を検討

地域を支える担い手の育成

○若手農業者による作業受託組織

- ・法人化後の受託事業(大豆は種、ドローンによる防除等)運営の円滑化のため、労働時間や収支等を検証